

心身障害を持つ乳幼児の母子相互作用 に関する臨床的研究

児 玉 和 夫 (心身障害児総合医療療育センター・外来療育部長)
武 藤 安 子 (" 臨床心理士)
江 木 明 美 (" ")

乳幼児の発達心理学については、近年かなり研究されてきてはいるが、障害児とその母親との関係の変化を乳幼児期から実践的に研究した報告は少ない。このため3年間にわたる本研究で、種々の障害を抱えた乳幼児の発達と母子関係を研究し各方面でのこれからの障害児療育に役立てていきたい。

研究は大きく2つに別れる。当センターの母子入園部での研究と、通園部での研究の2つである。3カ年の研究内容は問題点の分析、経過確認、指導方針の検討と整理しうが必ずしも年次毎に区別しうるものではない。

I. 母子入園による母子相互作用の発達治療的意義 (協力者 江木明美)

早期発見・早期治療という医学的動向により、当センター母子病棟に入院する心身障害児もより低年齢化している昨今である。

本研究の研究課題Iとして、(1)母子相互作用の成立、発達に影響を及ぼす因子について、重篤な心身障害という特殊性を考慮しながら検討を進めていく。(2)更に、母子相互作用の成立、発達のために有効な臨床心理学的アプローチについて模索・検討をする。(3)3カ月あるいは1.5カ月間の母子のみの入園生活による治療・療育の意義を考察

する。

研究対象は、当センター母子病棟入園の乳幼児とその母親である。

研究方法は、母子に対する心理的個別指導、母子集団保育場面、日誌、その他入園中の臨床心理学的データ及び退園後の追跡データによる。

II. 母子通園による母子相互作用の発達治療的意義 (協力者 武藤安子)

障害をもつ乳幼児の両親、殊に母親が直面する養育の困難さの中で、身体的、心理的、社会的な条件の他に、母子間の相互関係の形成における困難さについて論じられることが多くなり、健全かつ適切な母子相互作用の機能が、障害をもつ子供の発達および療育的効果に与える影響が重要視されるようになってきている。

本研究の研究課題IIとして、(1)「障害」という特異な条件を含めながら、母子間の相互関係の形成、発達を規定する条件(促す条件、阻害する条件)の検討を行ない、(2)母子相互関係の発達過程への援助の方法及び通園療育の意義について考察する。

研究方法は、当センター通園児(0才～6才)及び母親の継続的な臨床的観察法による。